令和8年熊本地震活動報告

DMATコーディネーションチーム３次隊

川崎医科大学附属病院
日本DMATコーディネーター
堀内麻央

活動チーム概要

- DMATコーディネーター派遣
  （看護師Co.に医師1名が帯同）
- 派遣期間：2026年8月13日（木）～17日（月）
- 活動場所：八代地域保健医療福祉調整現地本部　氷川町支所（氷川町健康センター内）



指揮系統（氷川町支所）

熊本県保健医療福祉調整本部

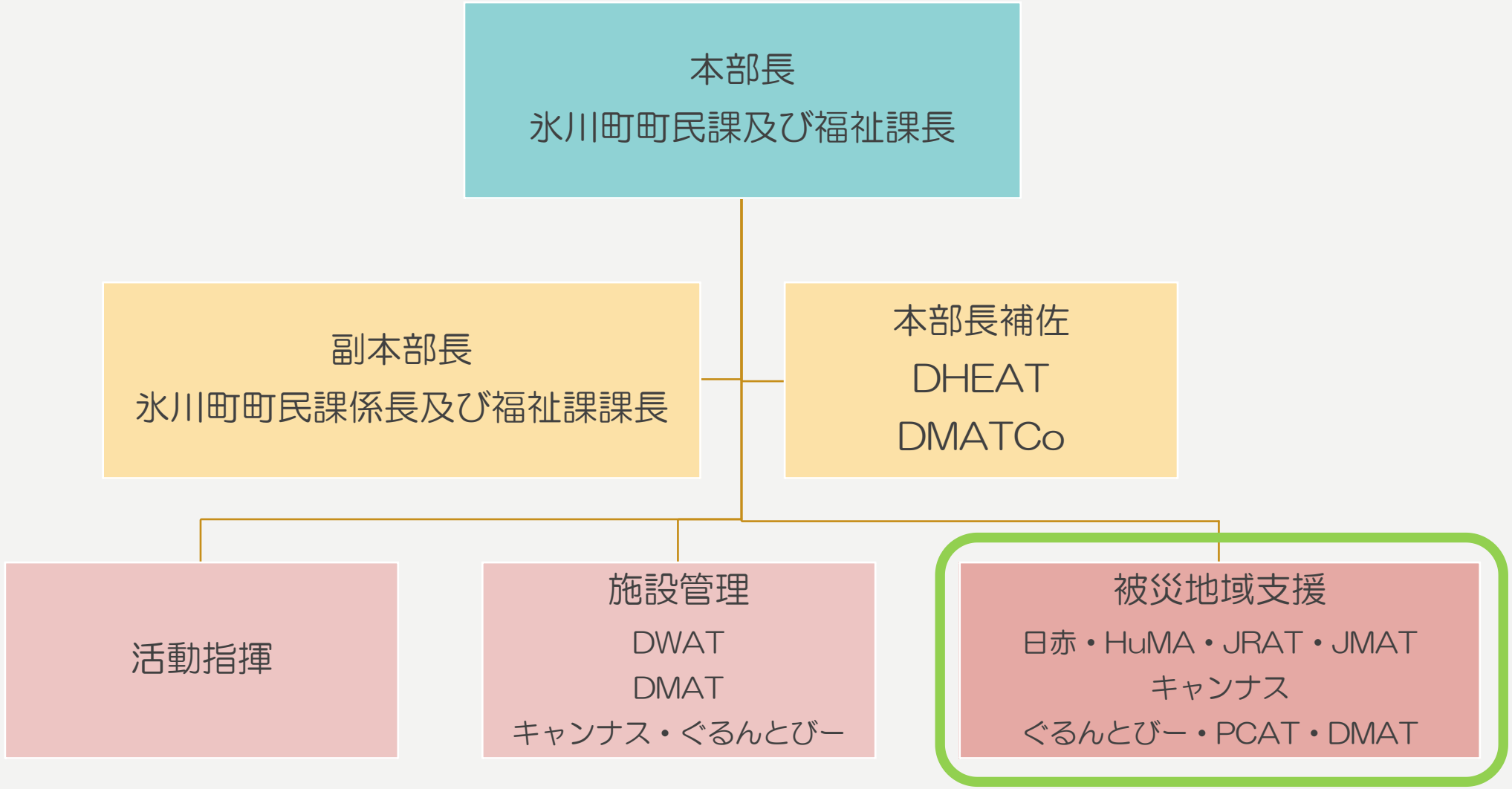
宇城地域保健医療福祉現地調整本部

八代地域保健医療福祉現地調整本部
本部長：八代保健所長

八代市役所
（八代市役所内）

氷川町支所
（氷川町健康センター内）

指揮系統


本部長
氷川町町民課及び福祉課長
副本部長
氷川町町民課係長及び福祉課課長
本部長補佐
DHEAT
DMATCo
活動指揮
施設管理
DWAT
DMAT
キャンナス・ぐるんとびー
被災地域支援
日赤・HuMA・JRAT・JMAT
キャンナス
ぐるんとびー・PCAT・DMAT

活動内容

- 本部・保健医療福祉調整会議への参加
- グループホーム「やすらぎの里」への施設支援

  入浴・食事介助、おむつ交換、清掃など
- 施設の人的支援ニーズの把握・調整
- 通所・居宅支援事業所の訪問調査・施設カルテ作成
- 災害ボランティア・全社協・DCAT等との支援調整
- 4次隊への引き継ぎ





氷川町支所

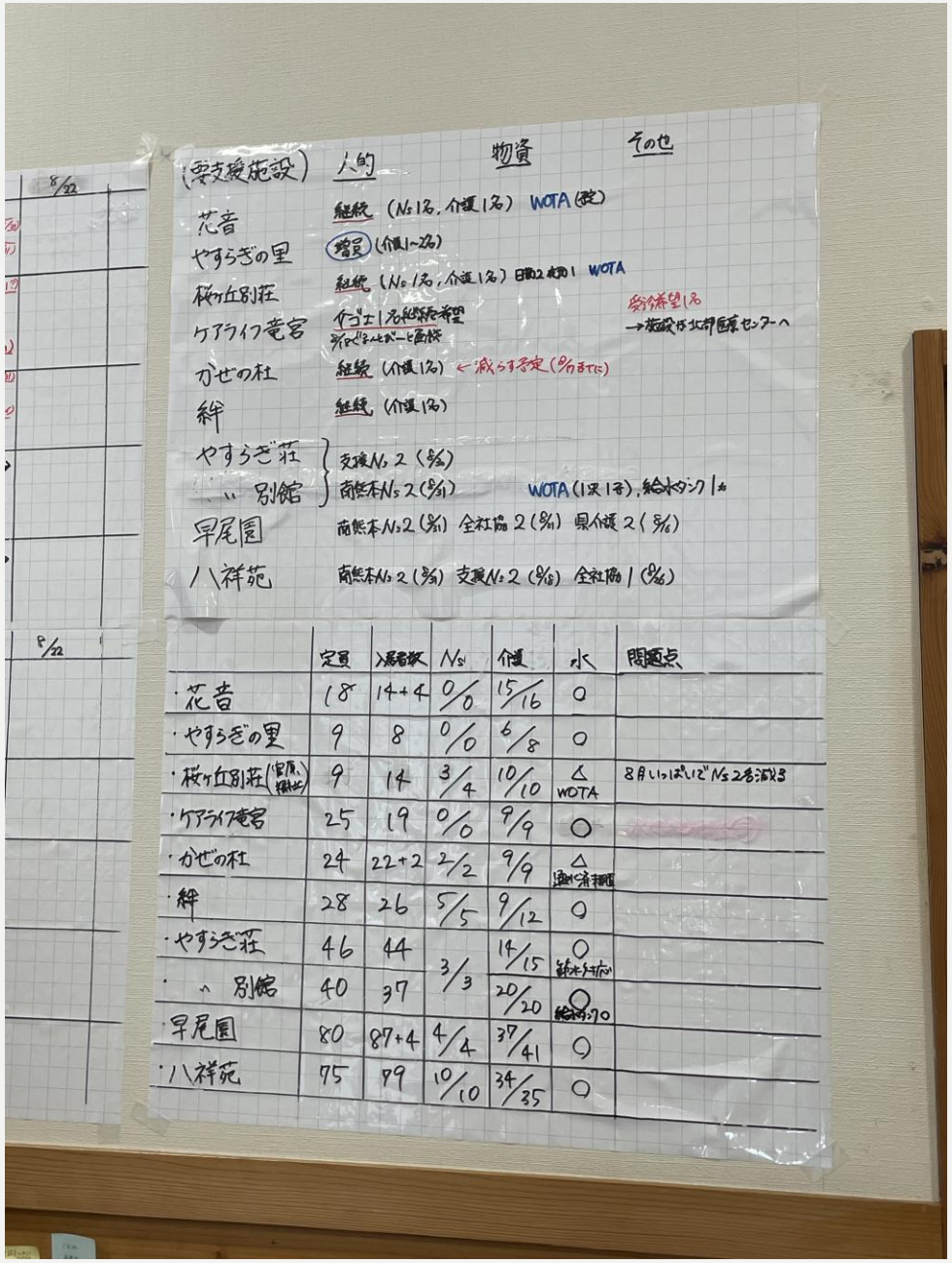






保健医療福祉調整会議

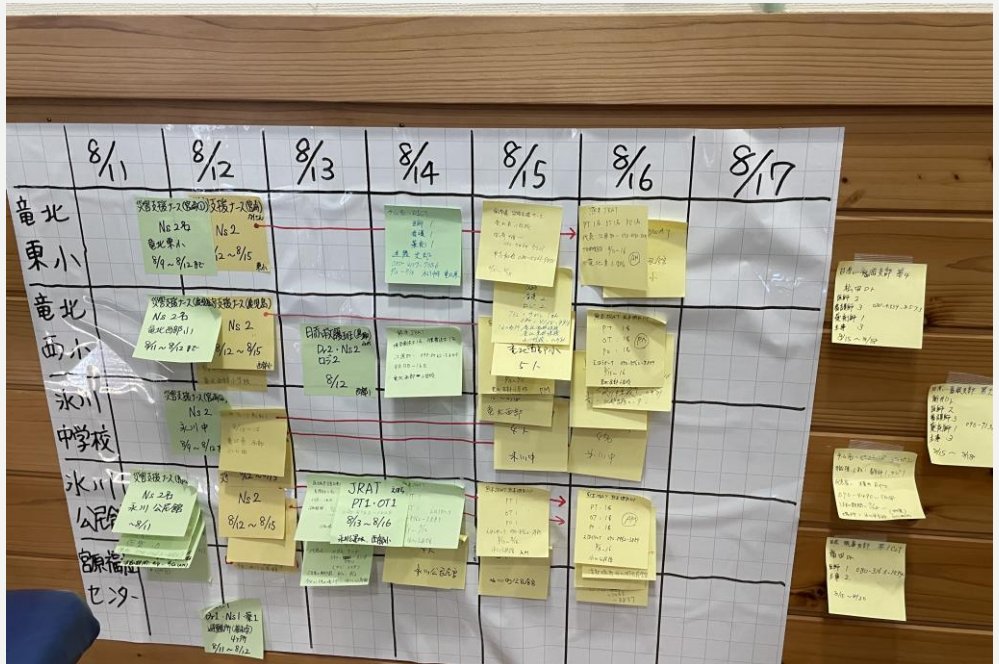


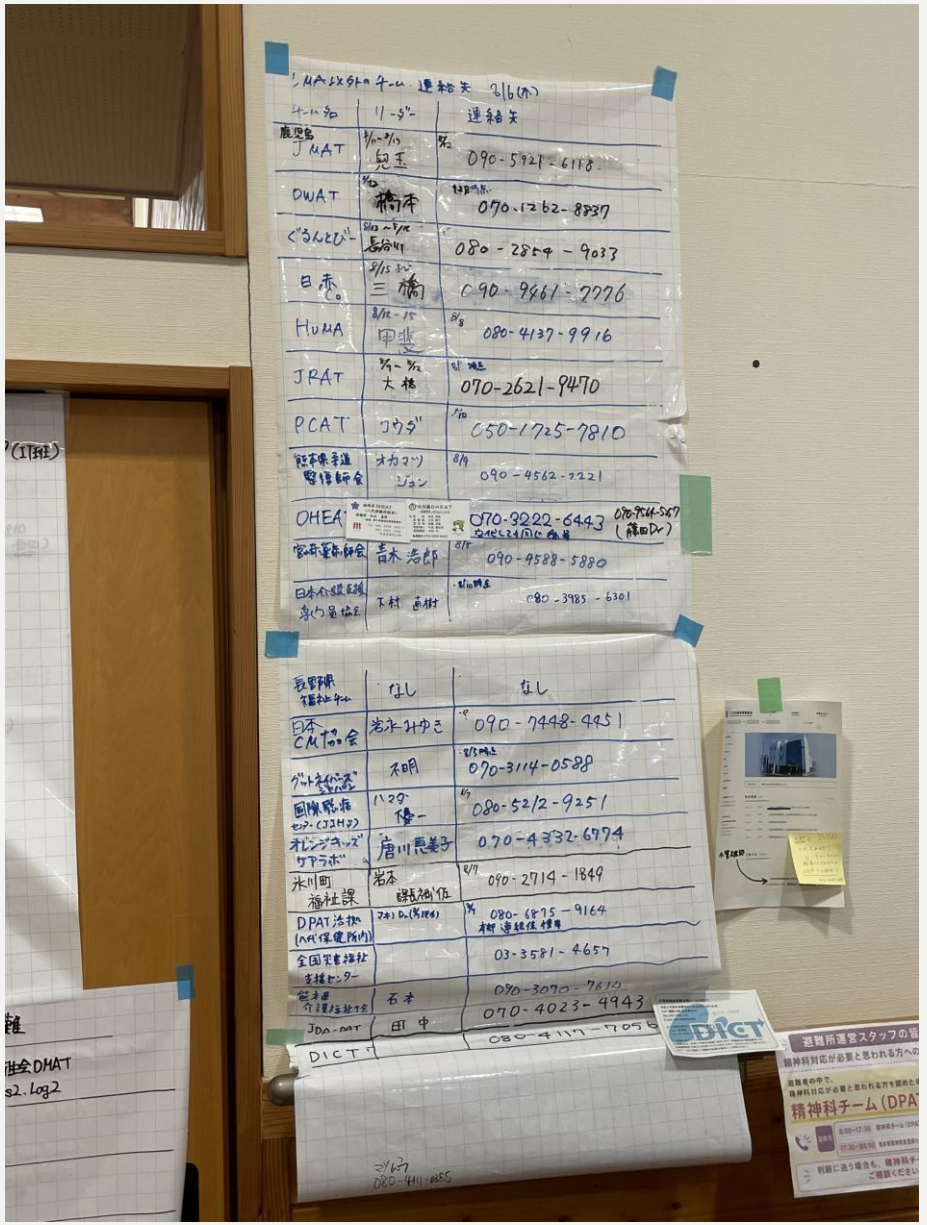


入所施設情報と支援状況・訪問スケジュール



避難所情報と支援団体

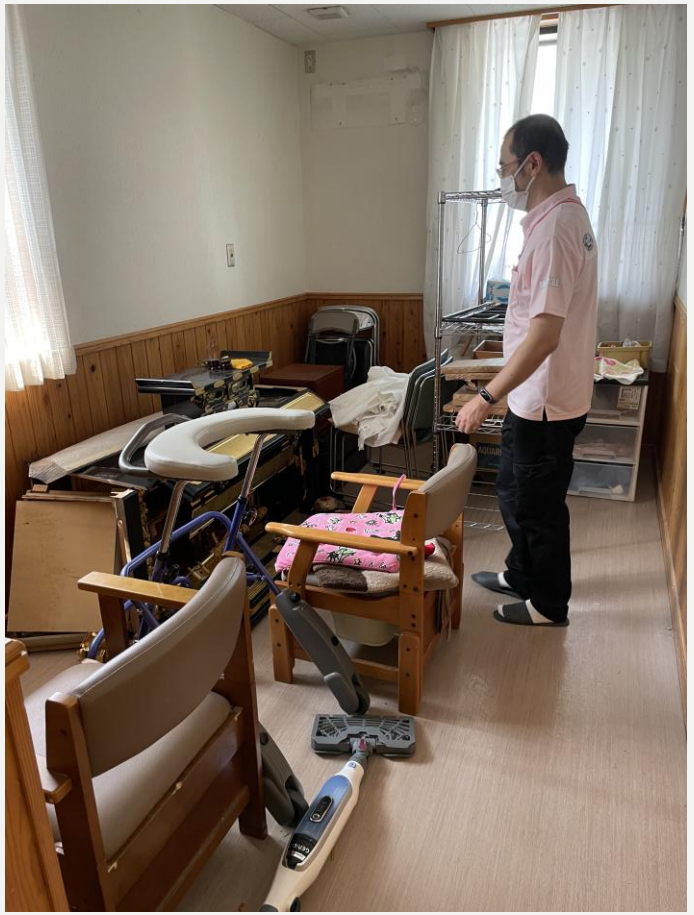




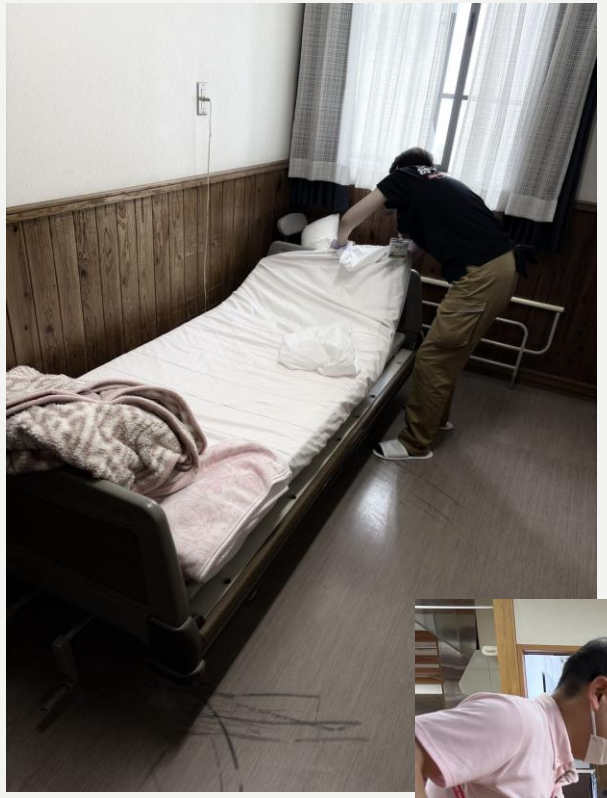
外部支援団体のコンタクトリスト







片付け作業











清掃





入浴介助

課題・反省点

- 施設職員の疲弊・人員不足に対する継続的な支援
- 支援情報を整理し、行政へ引き継ぐこと
- 災害フェーズに応じて、求められる役割が変化すること

→ 「自分の役割を固定しない」ことの重要性

課題・反省点

継続的な施設支援に向けた課題

1．支援情報の共有

- グループホーム協会：会員施設に支援が入ることを把握していなかった
- 支援を必要とする施設と、関係団体との情報共有・連携が課題

2．継続支援を支える制度・仕組み

- 全国社会福祉協議会を通じた医療者派遣が有料であることでボランティア団体への依頼増
- 継続的な支援を実施するためには、費用負担も考慮する必要がある
- 災害救助法の適用など、支援に必要な費用を確保するための制度を熟知していく必要があった

今回の活動での気づき

- 施設への定期的な訪問・電話調査を実施
- 今回支援したのは、発災後から連絡が取れていなかった施設

「連絡が取れない」こと自体を、支援上のサインとして捉える必要がある

- 急性期の災害対応でも、情報が届きにくい施設・支援につながりにくい施設が生じる
- 連絡が取れない理由を、単に「不通」と判断せず、丁寧に確認することが重要

→ 見えているニーズだけでなく、見落とされているニーズを探す視点が必要

失敗したこと・困ったこと

- 今回は医師と帯同しての派遣
- 実際の活動は、医師と別々に行う形となった

そこで改めて考えたこと

「帯同して派遣されることには、どのような意味があるのか？」

「どのような役割分担・連携が望ましかったのか？」

→ 今回の活動だけでは明確な答えは出ていない

→ 今後も考えていきたい課題

注力した点・今後につなげたいこと

- 目の前の支援を行うだけでなく、その先の支援につなげる
- 支援を抱え込まず、関係機関・支援団体につなぐ
- 制度や費用負担、各支援団体の特徴を理解しておく必要がある
- フェーズに応じて、自分の役割を柔軟に変える
- 帯同医師との連携・役割分担について、今回の経験を今後の活動に生かす
- コーディネーター派遣について組織への可視化を検討する